

Definition 0.0.1

基点付き空間 (X, x_0) に対し、 $\tilde{H}^*(X) = H^*(X, x_0)$

と定義し、 X の被約コホモロジー群と呼ぶ。また、

(X, x_0) , (Y, y_0) と、基点を保つ写像、 $f : (X, x_0) \rightarrow (Y, y_0)$ に対し、

$$f^* : \tilde{H}^*(Y) \rightarrow \tilde{H}^*(X)$$

が誘導される。

被約コホモロジー群は実はなぜだか、ただの基点付きではなく、非退化な基点つき空間で定義されるのが一般である。

Remark 0.0.2

\tilde{H}^* : 非退化な基点つき空間の圏 \rightarrow *Abel* は反変関手である。

Remark 0.0.3

X : 一点空間に対し、 $\tilde{H}^*(X) = 0$

Theorem 0.0.4 (次元定理)

$$\tilde{H}^n(S^0) = \begin{cases} \mathbf{Z} & n = 0 \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

proof) $\tilde{H}_*(S^0)$ が自由であるから、普遍係数定理より、

$$\tilde{H}^*(S^0) = H^*(S^0, x_0) \cong H_*(S^0, x_0)^\sharp \cong \tilde{H}_*(S^0)^\sharp$$

だから、成り立つ。

Proposition 0.0.5

位相空間対 (X, A) に対し、 $i : A \rightarrow X$ が cofibration であるなら、

$$p^* : \tilde{H}^*(X/A) \rightarrow H^*(X, A)$$

は同型である。

proof) 被約ホモロジー群を思い出せば、mapping cone を用いて、

$$\begin{array}{ccc} (C_i - *, CA - *) & \xrightarrow{i} & (C_i, CA) \\ \uparrow j & & \downarrow q \\ (X, A) & \xrightarrow{p} & (X/A, *) \end{array}$$

が可換になり、 q, j が homotopy equivalence で、 i は切除同型の inclusion となる。よって、

$$p^* : \tilde{H}^*(X/A) \longrightarrow H^*(X, A)$$

は同型である。

Theorem 0.0.6 (完全性定理)

位相空間対 (X, A, x_0) に対し、 $i : A \longrightarrow X$ が基点付き cofibration ならば、

$$H^*(X/A) \xrightarrow{p^*} \tilde{H}^*(X) \xrightarrow{i^*} \tilde{H}^*(A)$$

は完全である。ただし、 p は projection

proof) Prop 0.0.5 と 3 対 (X, A, x_0) の長い完全列から成立。

Theorem 0.0.7 (加法性定理)

$\{(X_\lambda, x_{\lambda_0})\}_{\lambda \in \Lambda}$ は非退化な基点つき空間の族とする。

$$X = \bigvee_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$$

とおくと、inclusion $i_\lambda : X_\lambda \longrightarrow X$ に対し、

$$\prod i_\lambda^* : \tilde{H}^*(X) \longrightarrow \prod \tilde{H}^*(X_\lambda)$$

は同型

proof) 空間対の加法性定理、ホモロジーの加法性定理を参照すればよい。

Theorem 0.0.8 (ホモトピー定理)

基点を保つ連続写像 $f, g : X \rightarrow Y$ に対し、 $f \simeq g$ ならば、 $f^* = g^* : \tilde{H}^*(Y) \rightarrow \tilde{H}^*(X)$

proof) 空間対で証明済み。

Corollary 0.0.9

可縮な空間 X に対し、 $\tilde{H}^*(X) = 0$

Theorem 0.0.10 (懸垂定理)

非退化な基点つき空間 (X, x_0) に対し、

$$\exists \Sigma : \tilde{H}^n(X) \rightarrow \tilde{H}^{n+1}(\Sigma X) \quad \text{同型}$$

s.t $f : Y \rightarrow X$ に対し、次の図式を可換にする。

$$\begin{array}{ccc} \tilde{H}^n(X) & \xrightarrow{\Sigma} & \tilde{H}^{n+1}(\Sigma X) \\ f^* \downarrow & & \downarrow (\Sigma f)^* \\ \tilde{H}^n(Y) & \xrightarrow{\Sigma} & \tilde{H}^{n+1}(\Sigma Y) \end{array}$$

proof) ホモロジーを思い出せばよいのだが、一応説明すると、

対空間 (CX, X, x_0) の完全列と、 CX が可縮な事から、

$$\delta^* : \tilde{H}^n(X) \rightarrow H^{n+1}(CX, X)$$

は同型であり、 $i : X \rightarrow CX$ が cofibration であるのと、 $CX/X \cong \Sigma X$ であるため、

$$p^* : \tilde{H}^n(\Sigma X) \rightarrow H^n(CX, X)$$

が同型となる。この二つを用いて、同型

$$\Sigma = p^{*-1} \circ \delta^* : \tilde{H}^n(X) \rightarrow \tilde{H}^{n+1}(\Sigma X)$$

が構成できる。また、 $f : Y \rightarrow X$ に対し、

$$\begin{array}{ccccc}
 \tilde{H}^n(X) & \xrightarrow{\delta^*} & H^{n+1}(CX, X) & \xleftarrow{p^*} & \tilde{H}^{n+1}(\Sigma X) \\
 \downarrow f^* & & \downarrow (Cf)^* & & \downarrow (\Sigma f)^* \\
 \tilde{H}^n(Y) & \xrightarrow{\delta^*} & H^{n+1}(CY, Y) & \xleftarrow{p^*} & \tilde{H}^{n+1}(\Sigma Y)
 \end{array}$$

の図式が成り立つので、題意の図式が可換となる。

Proposition 0.0.11

$$\tilde{H}^n(S^m) = \begin{cases} \mathbf{Z} & n = m \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$